

平成30年度

<b>科目名</b>	家庭経営学	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>本授業では、家庭経済学を含む家庭経営学について学習するものである。まず、家庭経営学は家政学の中でどのように位置付けられるかについて理解を深めた上で家庭経営の重要性を認識することを第一の目標とする。</p> <p>第二に、家庭（家計）は国民経済において、企業や政府と並ぶ経済の主体として重要な存在であり、その家庭（家計）と切り離すことのできない経済の各事項（消費・物価・収入・支出・金利・サービス消費）について理解を深めることを目標とする。</p>		
<b>達成目標</b>	家庭経営学の家政学における位置付けについて理解できたか、家庭（家計）の国民経済における重要性について認識できたかを本授業の達成目標とする。		
<b>受講資格</b>	短期大学部 家政科 福祉情報専攻 2年生	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点（15点×2回） ②期末試験70点
<b>教科書</b>	プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	「今こそ家政学—くらしを創る11のヒント」ナカニシヤ出版		
<b>学生への要望</b>	普段からニュースや新聞で取り上げられる社会の問題について関心を持つようにすること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日1コマ、2コマ、3コマ、金曜日4コマ、5コマ 経営管理学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：事前に渡したプリントを見て内容を理解する（1時間）。 事後学習：プリント・ノートを見直して内容の理解を深める（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について解説。 家庭経営とは何か、家政学における位置付けについて学修する。
2	家庭経営の意義と歴史	家庭経営の意義、責任者、歴史について学修する。
3	家庭の機能	家庭の本来の機能について学修する。
4	家庭経営と家族と法律①	家族に関する主な法律について学修する。
5	家庭経営と家族と法律②	家族に関する主な法律について学修する（前回のつづき）。
6	家庭生活と福祉の問題	少子高齢化と老後の問題を中心に家庭生活と福祉について学修する。
7	家庭生活と時間	家庭管理から見た生活時間について学修する。
8	家庭生活と家事労働・余暇	家庭生活と家事労働との関係及び余暇の本質と意義について学修する。
9	家庭経済の意義	家庭経済の意義と家庭経済の経済的機能について学修する。 小テスト（1回目）
10	家庭経済の歴史	終戦（1945年）以降の家庭経済の変遷について学修する。
11	日本の経済社会と家庭経済	経済主体としての家庭（家計）、企業、政府について学修する。
12	消費者保護と家庭経済	消費者保護と消費者基本法、消費者に関連する問題について学修する。
13	家庭の収入と支出①	家庭の収入の本質と各項目の支出について学修する。
14	家庭の収入と支出②	消費支出と非消費支出、様々な消費の形態（サービス消費と各種カードの概要）について学修する。
15	家庭経済における生活設計	生活設計の重要性とその問題点について学修する。 小テスト（2回目予定）

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
担当教員	知野 愛		
開講期	IV		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。 教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
達成目標	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	①課題レポート50点 ②授業中のリアクションペーパー10点 ③最終レポート40点
教科書	なし。プリントを配布します。		
参考書	その都度紹介します。		
学生への要望	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラバスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
オフィスタイム	月曜IV限、金曜IV限、家政学館4階福祉情報専攻研究室		
自学自習	事前学習: 課題レポートの作成(1時間) 事後学習: 次回の課題レポートの作成、課題レポートがない回には授業で学んだ資料からポイントをノートに箇条書きし要点を復習する(1時間) 最終課題レポートは、図書館へ行き関連図書を探し、独自性のあるレポートを作成すること。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。明治民法と比較して考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」を調べて次回提出。
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」レポート課題提出を確認し代表者が発表する。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。課題レポート②「少子社会とは何か」、各自で調べて次回提出する。
5	少子社会の現状	課題レポート②「少子社会とは何か」を提出確認し代表者が発表する。日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。
6	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。課題レポート③「郡山市の子育て支援」について、各自で調べて次回提出する。
7	少子化と子育て支援	課題レポート③「郡山市の子育て支援」の提出確認をし代表者が発表する。少子社会における子育て支援の具体的な事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」(1つのキーワードを選ぶ)ということを次回提出する。
10	家族が抱える諸問題(2)	各自が作成した課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」のレポートについて、全員が発表し全体で質疑応答する。
11	中間振り返り・ポイント確認	前回の討議の結果生じた疑問点などを話し合う。後半では、家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題という、ここまでの授業内容の確認と補足をを行い、ポイントを確認する。
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。その一方で、諸外国では高齢者の生活はどのようなのかに目を向け、次回までに課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」を作成する。
13	諸外国の高齢者について(発表)	課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」のレポートについて各自が発表し全体で討議する。後半では諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。
14	戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。 最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。
15	まとめ・振り返り	この授業を通して学んだ事項を振り返りまとめとする。家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題、高齢社会の現状、高齢者の生活、高齢者介護と家族について、内容を確認・補足し、授業のポイントを確認する。最終レポートを指定日時までに提出する。

<b>科目名</b>	被服学概論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	田辺 真弓		
<b>開講期</b>	IV		
<b>授業概要</b>	<p>本講義は家政科福祉情報専攻専門必修科目であり、かつ、中学校教諭二種免許状「家庭」の必修科目であることから、被服学の全般を概括的に学ぶことを目的としている。また、それらの知識を活かして豊かな衣生活が営めるようになることを目標としている。さらに、将来、介護職に携わる場合にも役立つよう、介護を必要とする人の衣生活の質を高めるための知識を身につけることも目標としている。この授業の概要を次に掲げる。①服装史、服飾美学、被服材料学、被服衛生学、被服整理学、被服構成学、介護と衣服などの被服学全般にわたる基礎的知識を学ぶ。 ②この授業で得た知識を基に、衣生活に対する関心を深め、生涯にわたり豊かな衣生活を営もうとする態度を養う。 ③中学校教諭二種免許状・家庭取得のための必修科目として、中学校の家庭科における被服分野の授業が行えるよう、衣生活に関する知識を習得する。 ④介護を必要とする人に対しての衣生活の援助に役立つ知識を習得する。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①学生それぞれが自分の目標に応じて、被服についての日常生活上不足のない知識、家庭科教員として被服教育のできる知識、介護員として介護を必要とする人の衣生活の質を高めるための知識を身につける。 ②衣服のもつ様々な機能について理解している。 ③被服材料、被服衛生、被服整理について理解している。 ④着る人のサイズと体型にあった既製服の選択方法、ならびに高齢者・障がい者に適した衣服として望まれることについて理解している。</p>		
<b>受講資格</b>	福祉情報専攻2年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題提出 2回 20点 ②期末筆記試験 80点 60点を合格点とするが、講義内容の理解度は8割以上を求める。
<b>教科書</b>	プリントを配布する。4、9、11回は『服飾造形の基礎』（被服構成実習で使用した教科書）を使用する。		
<b>参考書</b>	小池三枝 著『服飾文化論』光生館、菅井清美・諸岡晴美 編著『衣生活概論』井上書院		
<b>学生への要望</b>	衣生活に関心をもって、新聞や雑誌の衣生活に関する記事や参考図書などを読み、広く知識を得ること。 事前学習:当日の内容をシラバスで確認しておく。(1時間) 事後学習:授業内容を振り返り、ノートにまとめる。(1時間)		
<b>オフィスタイム</b>	教務部非常勤講師控室 水曜日 I 時限		
<b>自学自習</b>	事前学習:「シラバス」の授業内容とスケジュール表に基づき、授業で取り上げる内容について、参考図書、被服学事典等で調べる。(1時間)事後学習:授業で学んだ内容についてノートにまとめ、疑問点等について調べるとともに、次回の授業において質問できるよう、質問項目をまとめる。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	被服学概論の講義内容について 日本風俗美術館見学	授業計画を配布し、講義の目標と、どのような内容について学ぶかを示す。本学園に設置されている日本風俗美術館を見学し、解説を聴くことにより、日本服飾史についての理解を深める。
2	被服の起源と被服のもつ機能 被服の社会性	被服の起源と衣服のもつ様々な機能について知る。また、衣服の機能のひとつである社会性について考えるとともに、衣服による表現について学ぶ。
3	衣服の廃棄とリサイクル—アパレル企業の取り組みと日本の伝統的な無駄のない衣生活—	現在、地球環境を守り、限られた資源を無駄なく活用しようとする意識が高まり、アパレル企業も3Rに取り組み始めた。一方、日本では伝統的に、衣料を最後まで使い切るという衣生活が実践されてきた。この2つの例について知り、衣服の廃棄とリサイクルについて考える。
4	衣服と色彩 (1)	ファッションプライム第4集「色彩」を視聴し、色彩に対する感情、古代から用いられてきた天然染料と近代になってから生産されるようになった合成染料、さらに、染色技法についての知識を得る。
5	衣服と色彩 (2)	日本の律令制における服制と色彩について知り、さらに、平安時代の襲色目が季節と密接に結び付いていることを学ぶ。それに反して、西洋の色彩は季節感とほとんど結び付いてこなかったことを知り、日本と西洋との色彩感覚が大きく異なっていることを理解する。
6	流行と衣服	衣服の流行はどのように発生して広がり、交代していくか、また、それに付随してどのような現象が現れるか、また、それはどのような意味をもっているかについて、文献および絵画等の資料を参照しながら学ぶ。
7	被服材料の種類とその歴史	ファッションプライム第3集「素材」を視聴し、世界各地で取材した貴重な映像を通して天然繊維の種類と特徴、その歴史を知り、被服材料についての知識を深める。さらに、化学繊維が開発された経緯と、その後、その機能が目覚ましく発展し、現在では様々な分野で用いられていることを知る。
8	被服材料と織物	天然繊維、化学繊維の種類とその性質を学び、その特徴からどのような衣服に適しているかを知る。また、織物・編物を構成している糸の種類、織物組織、被服地の性能、新しい被服材料について学ぶ。
9	アパレルファッションビジネスと商品企画	衣服製作のプロセスについて学び、さらに『アパレル—企画から販売まで—』を視聴して、現代のアパレル産業の商品企画、設計、サンプル作成、展示会、生産販売会議、工業用パターン作成、グレーディング、マーキング、延反、裁断、バンドリング、縫製、仕上げ、検査、販売等の実際を理解する。(『服飾造形の基礎』使用)
10	アパレル産業における生産のプロセスとコンピュータの活用	アパレル産業におけるコンピュータの活用は、まず、既製服の大量生産を効率化することから始まった。しかし、近年、生産効率を上げるためだけでなく、消費者のニーズを捉えた多品種少量生産をおこなうための活用が進んでいる。その活用例について学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	人体と計測・パターン製作 衣服のアイテムと着用目的	衣服製作のために知っておくべき人体の構造と人体計測、パターン製作についての基礎を学ぶ。また、既製服のサイズ規格についての知識を得る。さらに、衣生活を営む上で知っておくべき衣服のアイテム（品目）と着用目的について学ぶ。（『服飾造形の基礎』使用）
12	被服衛生	人が健康的な衣生活を営んでいく上で欠くことのできない被服衛生について学ぶ。被服気候、被服圧、被服重量、被服の汚染と湿潤、被服と皮膚障害などについての知識を得、自分の衣生活に生かせるようにする。
13	被服管理と被服の保管	衣服を清潔に、また質を低下させることなく繰り返し着用していくため、それぞれの衣服に適った被服整理の方法を学び、また、次のシーズンまで品質を保って保管するために必要な知識を得る。
14	介護と衣服	ユニバーサルファッションとは何かを学ぶとともに、介護用の衣服と障害者のための衣服にはどのようなものがあり、どのような点に配慮すべきかを学ぶ。
15	まとめ	この授業で学んだ内容をまとめ、重要な項目について補足する。また、筆記試験について説明し、質疑応答を行う。

科目名	服飾手芸	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択
担当教員	田辺 真弓		
開講期	Ⅲ		
授業概要	よく用いられている手芸技法についての基礎的知識と技術を学ぶことによって、手芸の要素を加えて衣服のデザイン性を高める方法を知るとともに、生活を彩る手芸作品の製作ができるようにする。さらに、福祉の現場でのレクリエーション等で手芸の指導ができる能力を身につけ、あわせて、福祉の現場で役立つ、バザーの運営方法を学ぶことによって、運営を実践できるようにする。		
達成目標	①よく用いられている手芸技法についての基礎的知識と技術を身につける。②学んだ知識と技術を応用し、生活を彩る手芸作品の製作ができる。③手芸の要素を加えて衣服のデザイン性を高めることができる。④福祉の現場でのレクリエーション等で手芸の指導ができる。⑤バザーの運営ができる。		
受講資格	短期大学部家政科福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	①作品の完成度 80点 ②提出期限日までの全作品提出 10点 ③実習の取り組みの姿勢 10点 60点を合格点とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	特に教科書は用いず、単元毎に技法及び作品製作についてのプリントを配布する。		
参考書	実習室に備えている多数の手芸関係書籍を適宜参考書とする。		
学生への要望	遅刻・欠席をせず、授業に熱心に取り組み、各回の授業の進捗に遅れないようにすること。全作品を必ず提出すること。		
オフィスタイム	家政学館4階 被服構成実習室 木曜日Ⅱ時限		
自学自習	事前学習:「授業内容とスケジュール」に目を通し、実習内容を予習する。(30分) 事後学習:授業時間中に進むべき工程を終了できたかを確認し、終了できなかった場合は終了させる。また、実習内容をノートにまとめ、疑問点があれば次回質問できるように、質問内容をまとめておく。(30分)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業計画の提示 刺繍(1)	授業計画を提示し、授業目標を理解させるとともにどのように授業を進めていくかについて説明を加える。また、演習内容について実物作品を提示してその特色、製作の方法等について解説する。また、材料ならびに各自が用意すべき用具について示す。 刺繍の技法を日常生活の中にどのように取り入れていくかを学ぶ。まず、刺繍針、刺繍糸、刺繍に適した布について知り、それらの特徴と種類、扱い方の注意点を学ぶ。 次に図案を布に転写する方法とよく行われる数種類の基本的なステッチの刺し方、糸の始末の仕方を学ぶ。それらのステッチを用いて刺繍を実習する。
2	刺繍(2)	前回に続いて刺繍を実習する。実習を通して、美しく丈夫な刺し方の技術を習得する。2種類のワンポイント刺繍の作品を完成させる。また、今回学んだ技法を日常生活にどのように応用できるかを考える。
3	いもむしストラップ製作	フェルトは羊毛のキューティクルが絡まり合う性質を利用して作られ、丈夫でほつれにくく、保温性に富むことから、衣服や手芸の材料としてしばしば用いられている。本時はフェルトを用いた手芸の1回目として、フェルトボールを用いて、フェルトの風合いを生かした「いもむしストラップ」を製作する。
4	ハートの小物入れ	本時はフェルトを用いた手芸の2回目として、フェルトのほつれにくい性質を利用して、針や糸を使わずに誰でも簡単にできる手芸作品を製作し、ボランティア活動などでも活用できるようにする。フェルト生地を型紙をあてて切り抜き、切り込みを入れて編み込んでいく方法で、ハートの小物入れを製作する。
5	テディ・ベアの製作(1)	布による立体構成の一例として、布と詰め物を用いてテディ・ベアを製作する。立体物を製作する際の縫い代の扱い方、布の裁断方法、細かいパーツを確実にかつ丈夫にミシンで縫製する方法、詰め物の扱い方、立体に組み立てる方法、ならびに仕上げの方法について製作を通して学ぶ。本時は製作方法の説明プリントと材料の配布をした上で、製作方法の全体を解説し、布の裁断を行う。
6	テディ・ベアの製作(2)	前回裁断した布に両面チャコペーパーで印つけをし、しつけをかけ、ミシン縫製の準備を行う。
7	テディ・ベアの製作(3)	テディ・ベアのミシン縫製に適したミシン糸について学び、ミシンの扱い方、ミシンの糸調節の方法、縫製上の注意点を確認し、ミシンを用いて各パーツの縫製を行う。縫製後の縫い代の始末の方法を学び、表に戻して整える。
8	テディ・ベアの製作(4)	テディ・ベアの詰め物の扱い方について学ぶ。バランスのよい詰め方を確認し、各パーツにポリエステル綿を詰める。各パーツに詰める綿の分量に注意しながら、形を整える。
9	テディ・ベアの製作(5)	各パーツの詰め口を綴じ合わせる。詰め口は表面から目立たないように、渡しまつりの技法を用いる。耳、目、鼻、口の位置により、表情が異なることを確認した上で、頭部にバランスよく左右の耳、ビーズの目を付け、鼻と口を刺繍糸で刺繍する。
10	テディ・ベアの製作(6)	丈夫な糸を用いて、頭と胴体をしっかりとつなぎ、さらに両腕、両足が動くようにつなぎ合わせる。丈夫に縫えているかを確認する。最後に首にリボン結び、完成させる。
11	巾着袋製作	作り方を知っているとして役立つ、基本的な巾着袋の製作を行う。ひもの通し口の縫い方や、きれいに仕上げるための方法を学び、完成させる。
12	クリスマスオーナメントの製作(1)	生活を彩る季節感あふれた小物の製作として、刺繍とアップリケの技法を用いたクリスマスオーナメントを製作する。
13	クリスマスオーナメントの製作(2)	前回に続き、クリスマスオーナメントを製作する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	ティッシュケース入れの製作	簡単なポケットティッシュケースの製作を行うことによって、バイアステープを用いたヘム（布端）の始末の方法を学ぶ。プリント柄の表地と配色を考えた裏地を選び、バイアステープでヘムの始末をした後、中表にしてミシン縫いし、表に返して形を整え、完成させる。
15	マルチトレイの製作	ミシンの直線縫いでできるマルチトレイを製作する。テディ・ベア製作ではポリエステル綿を詰め物として用いたが、本時はポリエステル不織布のキルト芯を用い、その扱い方や美しく仕上げる方法を学び、作品を完成させる。

平成30年度

科目名	食物学	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
担当教員	阿部 優子		
開講期	IV		
授業概要	食物学(調理学を含む)は人間が健康な生活を営むための重要な科目のひとつとして位置づけ、時代と共に変化する食生活を多面的に捉え、隣接した調理学、食品化学、食品衛生学などの各分野の研究成果を踏まえた諸事項を授業内容とする。さらに、安心して安全な食生活を送るために役立つ理論と実際を科学的、客観的に学び、実際の生活に応用する力を身に付けることを目的とする。		
達成目標	①食文化の成り立ちを理解して生命の維持を担う食物の重要性を理解している。 ②安心・安全な食生活を営む力が身に付いている。 ③広い視野にわたる食選力と献立作成能力が身に付き、日常生活に応用して健康な生活を営む実践力が身に付いている。		
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	講義ノート・レポート提出ならびに予習・復習を兼ねた研究ノート作成を主な課題として、80%、小テスト20%で評価する。尚、60点以上を合格とするが、80%程度の理解を求める。
教科書	特に指定しない。授業実施の前の週に資料を配布する。また、当日に資料の追加を配布することもある。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	欠席をしないで、私生活を慎み研究的な態度で受講し、課題は必ず提出をすること。		
オフィスタイム	月曜日のⅣ限(14:30~16:00)、木曜日のⅢ限(12:50~14:20) 研究室：家政学館1階「No.2調理学研究室」		
自学自習	事前学習 当日の資料内容を確認しておくこと(1時間) 事後学習 講義の内容をまとめて補足のための課題がある場合は対応する。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業のガイダンス	シラバスを基に授業内容のあらましを説明するとともに、授業の心構えならびに評価の方法についても知らせる。また、限られた授業時間を補足する為の「研究ノート」作成に関する説明を行い、健康的な生活を営むための基礎としての食物学(調理学を含む)について理解を深める。
2	食物と文化	日本人の食生活の成り立ちに関する「食物史」に触れ、人間の生活における「食」がどのように位置づけられてきたかを理解して、「食」の社会化が進む現代において食生活のもつ意義と今後の在り方について、社会との関連性の中でその方向性を理解する。
3	調理操作について(1)	調理実習を進める際の準備のひとつである副次的操作について学ぶ。 計量、洗浄、浸漬、解凍、切断、粉碎、摩砕などの準備操作の意義と目的を知り、再現性のある実習方法について理解を深める。
4	調理操作について(2)	調理実習を進める際の準備のひとつである副次操作について学ぶ。 攪拌、混合、圧搾、ろ過、伸展、冷却、凝固、凍結などの副次的操作の目的と必要性を理解して、再現性のある調理実習の方法について理解を深める。
5	食品の保存と安全性について	安全な食生活を営むために必要な食品の品質表示の見方や使用添加物の種類について、演習による体験を通して理解を深め消費者としてのあり方を知る。  ビデオ視聴とレポート提出 「食品添加物について」
6	食べ物のおいしさ(1)	食物のおいしさは多種の感覚により実感するが、それらの基本について学ぶ。(1)では、味覚を取り上げ、味の種類である甘味、酸味、塩味、苦味、うま味の概要について理解を深める。  ビデオ視聴とレポート提出 「うま味のふるさと魚醤」
7	食べ物のおいしさ(2)	(2)ではテクスチャー、香り、色、湿度、その他(音・環境)などについて、おいしさとの関連から、その要因について学ぶとともに官能検査についても触れる。
8	食事の計画	計画的な食生活を営むためには、対象者の特徴に合わせた献立作成が重要となる。日常の食生活をまた、経済性、季節感、地場産の食材の利用などを考慮した望ましい献立作成の方法について学ぶ。
9	献立作成について(1)	日常の食生活を記録して問題点を探り、より良い食生活を探るために、献立マスターシールを使って学習する。日本人の栄養所要量を参考にして、望ましい献立を作成することによって、日常の食生活を管理する能力を身に付けることを理解する。
10	献立作成について(2)	前回の資料作成を継続して行い、完成した献立の内容について、工夫した点や改良した点等を発表する。
11	献立構成とマナー	日本料理、西洋料理、中国料理などの日常食や饗応食の献立構成について学びそれぞれの特徴を理解する。また、演習としてテーブルセッティングの実際を行うとともに、それぞれのマナーについて理解を深めて生活に取り入れられるような実践力を身につける。  ビデオ視聴とレポート提出 「楽しい食事のマナー」
12	食環境の整え方について	食事をおいしくするためには食環境が重要である。日本料理、西洋料理、中国料理それぞれの供卓方法を理解して、適切な食器の選び方、使用方法について学び、正しい食事のマナーを身に付ける。  ビデオ視聴と課題提出 「簡単 テーブルコーディネート」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	食品の機能について	健康維持増進のための食品の機能について学び、健康状態に合った食品素材の栄養成分・調理性・素材の取り合わせを考え、食事の質を高めるための知識と方法を理解する。
14	まとめ	これまでの授業内容についてまとめたノート、研究ノートの整理とレポート課題をまとめ、授業を通して理解できたことを整理するとともに、今後の食生活のあり方について問題を認識する。
15	研究課題の発表	各自が作成した研究ノートを基にして、課題設定の目的、内容ならびにコメント等を加えて、発表会を行い、食生活を取り巻く状況を理解するとともに、問題意識をもちながら望ましい食生活を営むための力を養う。



平成30年度

<b>科目名</b>	栄養学	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修	
<b>担当教員</b>	高橋 徹			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	この講義では、健康な生活を送るために重要な栄養学の基礎を学ぶ。 ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とする栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）が、どのような役割を果たしているかを理解するため、各栄養素の消化・吸収、代謝（体内での分解や合成）とその調節機構について学ぶ。			
<b>達成目標</b>	各栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）の消化・吸収とその調節機構を理解する。 各栄養素や水分、電解質の代謝を理解し、それぞれどのような役割を担っているかを理解する。			
<b>受講資格</b>	短期大学部 家政科 福祉情報専攻 必修	<b>成績評価 方法</b>	期末テスト（70%）、出席および授業態度（30%）	
<b>教科書</b>	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一 編、羊土社）			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日のIII限およびV限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容を教科書で確認しておくこと（1時間） 事後学習：ノートのまとめと復習（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	栄養の概念	栄養の定義、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史
2	食物の摂取	空腹感・満腹感、食欲、摂食量の調節、概日リズムと食事のタイミング
3	消化・吸収と栄養素の体内動態（1）	消化と吸収、管腔内消化、管腔内消化の調節
4	消化・吸収と栄養素の体内動態（2）	膜消化、吸収、栄養素別の消化・吸収
5	消化・吸収と栄養素の体内動態（3）	栄養素の吸収経路、食物繊維・難消化性糖質の作用、消化吸収率
6	たんぱく質の栄養（1）	たんぱく質とアミノ酸、食後・食間のたんぱく質・アミノ酸の代謝、アミノ酸の代謝
7	たんぱく質の栄養（2）	体たんぱく質の代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差、たんぱく質栄養状態の評価指標、たんぱく質の栄養価
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路、エネルギー源としての役割、糖質の体内代謝、他の栄養素との関係
9	脂質の栄養（1）	脂質の種類、脂肪酸の種類、脂肪酸の代謝経路
10	脂質の栄養（2）	エネルギー源としての役割、多価不飽和脂肪酸の代謝、脂質の体内輸送、脂肪細胞の役割
11	ビタミンの栄養（1）	ビタミンの種類、脂溶性ビタミン
12	ビタミンの栄養（2）	水溶性ビタミン
13	ミネラルの栄養	ミネラルの種類、骨・歯とミネラル、鉄の機能と貯蔵、酵素とミネラル、生体機能調節とミネラル
14	水・電解質の栄養的意義	生体内の水、水の出納、水分量の調節、脱水と浮腫、電解質と酸塩基平衡
15	エネルギー代謝	食物のエネルギー、エネルギー消費量、臓器別エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定法

科目名	調理実習Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 選択
担当教員	阿部 優子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>〔授業のねらい〕 調理実習Ⅰの目標を発展させ幅広い調理技術を身につけるとともに、訪問介護員初任者研修修了課程のために必要な実習を取り入れる。 〔授業全体の内容の概要〕 特別食(乳幼児食、老人食、行事食、郷土食)の実習を通して、これからの生活に役立つ知識や技術を身につけ、豊かな食生活を実現するための応用力を身につける。</p>		
達成目標	<p>①これまでの授業で習得した基本的な技術を発展させた応用力を身につける。 ②特別食を通して、適性な食生活を営むための調理方法を見極める力を身につける。</p>		
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	課題の取組み30点、授業態度30点、テスト40点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	授業内容を記載したプリント配布		
参考書	必要に応じて連絡する		
学生への要望	グループ実習なので無断で欠席をしないこと。 実習上の注意をよく守り衛生的な配慮と安全に心がけること。		
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限(14:30~16:00)、木曜日Ⅲ限(12:50~14:20) 研究室：家政学館1階「No.2調理学研究室」		
自学自習	事前学習：シラバスをもとに、当日の内容について確認しておくこと(30分) 事後学習：実習ノートに、実習後の感想の記入及び実習内容の確認等のまとめを行う(30分)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	調理実習Ⅱガイダンス	調理実習Ⅱの授業目的について理解を深めるとともに、班構成を行い次回の実習授業に向けて実習室内の整備等を行う。
2	調理実習Ⅱガイダンス	調理実習Ⅱの授業目的について理解を深めるとともに、班構成を行い次回の実習授業に向けて実習室内の整備等を行う。
3	春のティーパーティー準備	「春のティーパーティー」の開催に向けて、料理の献立作成、会の進行について計画を進める。
4	春のティーパーティー準備	「春のティーパーティー」の開催について検討した内容について、材料の準備、当日のスケジュール等具体的な準備を進める。
5	春のティーパーティー	前回までの準備内容をもとに、全員で献立を実習する。また、会の運営を通して、ホスピタリティの心を学ぶ。
6	春のティーパーティー	前回までの準備内容をもとに、全員で献立を実習する。また、会の運営を通して、ホスピタリティの心を学ぶ。
7	行事食・特別食について	これまでに学んだ内容を復習するとともに、今後の実習スケジュールの確認を行う。
8	行事食・特別食について	実習予定である「季節の和菓子」「行事食」「特別食(1)、(2)、(3)」について説明を行い、実習が円滑に進むよう備える。
9	季節の和菓子	お茶は嗜好品として毎日欠くことのできないものであり、疲労回復、ビタミン補給に役立つことを理解し、茶の種類と入れ方を学ぶとともに、和菓子についての理解を深める。
10	季節の和菓子	上記で学んだ内容をもとに、実習を行う。 《実習名》 柏餅 サイダーかん 抹茶・煎茶
11	行事食	携行食としての弁当についてその特性を理解するとともに、献立作成の留意点について学び、ハレ食としての行楽弁当にふさわしい献立作成を調理手法を身につける。
12	行事食	上記で学んだ内容をもとに、実習を行う。 《実習名》 行楽弁当(飯 揚げ物 煮物 厚焼き卵 和え物 甘味)
13	特別食(1)	乳幼児の身体的ならびに栄養上の特徴について学び、人間としての食生活の基礎ともなる離乳食や幼児食の献立構成を理解する。
14	特別食(1)	上記で学んだ内容をもとに、実習を行う。 《実習名》 調乳 離乳食(米がゆ パンがゆ 野菜のマッシュ 魚のほぐし煮) 幼児の間食(フルーツ蒸しパン)、バナナケーキ
15	特別食(2)	介護食① 高齢者が安全で食べやすいように工夫された行事食を題材にして実習する。
16	特別食(2)	上記で学んだ内容をもとに、実習を行う。 《実習名》 炊きおこわ 鮭のみみじ揚げ なすと鶏肉のつや煮 泡雪かん
17	特別食(3)	介護食② 前回に引き続き、高齢者が食べやすい献立を題材にして介護食の実習を行う。
18	特別食(3)	上記で学んだ内容をもとに、実習を行う。 《実習名》 セタそうめん 肉じゃが、ひじきの五目煮 牛乳もち
19	老人食の献立の作成	家事援助内容のひとつである食事作りの基礎を学ぶため、家庭に常備されている限られた材料を組み合わせ、老人向けの献立を作成して応用力を身につける。
20	老人食の献立の作成	作成した献立を確認し、次回の実習に向けて具体的な準備作業を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	老人食の実習	前回作成した献立をもとにして、班毎の共同作業により実習品を完成させる。
22	老人食の実習	完成した実習品をもとに献立内容について合評会を行い、画像とともにレポートにまとめる。
23	福島県の郷土料理	福島県の食文化について学ぶとともに、代表的な郷土料理を実習し、献立の応用力を身につける。
24	福島県の郷土料理	上記で学んだ内容をもとに、実習を行う。 《実習名》 山菜おこわ飯 こづゆ つと豆腐 揚げ物
25	授業の確認とまとめ	実技と献立作成能力を見るため、既習の実習内容から課題を設定して、テーマとなった食材を主材として献立作成を行う。
26	授業の確認とまとめ	作成した献立を確認し、次回の実習に向けて具体的な準備作業を行う。
27	個別調理実習	前回作成した献立をもとに、各自、実習を行う。
28	個別調理実習	完成した作品を個別に写真撮影を行い、作り方、工夫、盛り付け等の評価を受けるとともに、内容についてレポートにまとめてWebから提出作業を行う。
29	授業の最終確認とまとめ及び実習室の整備	既習の実習内容のまとめを行い、実習記録及び実習後の感想を確認して実習ノートの完成を提出の準備を行う。実習室内の器具、備品等を点検し、不足分を補充する。実習台、器具、備品等の洗浄や補修を行い、実習室の衛生的管理方法について学ぶ。
30	授業の最終確認とまとめ及び実習室の整備	既習の実習内容のまとめを行い、実習記録及び実習後の感想を確認して実習ノートの完成を提出の準備を行う。実習室内の器具、備品等を点検し、不足分を補充する。実習台、器具、備品等の洗浄や補修を行い、実習室の衛生的管理方法について学ぶ。

平成30年度

<b>科目名</b>	福祉住環境論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	藤田 延幸			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	人間にとってきわめて重要な生活の基盤である住まいについて、機能とデザイン、生活環境、安全で健康な住宅、高齢者・障害者の特性などの基礎的事項を福祉の観点から住生活と関連づけて学習する。そして、福祉住環境コーディネーター2級の資格に挑戦する実力を養う。			
<b>達成目標</b>	人間にとってきわめて重要な生活の基盤である住まいについて、機能とデザイン、生活環境、安全で健康な住宅、高齢者・障害者の特性などの基礎的事項を福祉の観点から住生活と関連づけて学習する。そして、福祉住環境コーディネーター2級の資格に挑戦する実力を養う。			
<b>受講資格</b>	家政科福祉情報専攻2年生	<b>成績評価 方法</b>	出席状況・定期試験・レポート重視・定期試験の結果・授業中の発表結果。	
<b>教科書</b>	『12福祉住環境コーディネーター2級検定試験過去5回問題集』			
<b>参考書</b>	特に指定しない			
<b>学生への要望</b>	福祉住環境に関する知識を身につけ資格を得る努力を重ねる。			
<b>オフィスタイム</b>	木曜日 授業終了後			
<b>自学自習</b>				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	高齢者・障害者を取りまく住環境（1）	住環境整備、介護保険制度について
2	高齢者・障害者を取りまく住環境（2）	高齢者・障害者向けの住宅施策について
3	障害者の定義・とらえ方と自立支援（1）	リハビリテーション・自立支援について
4	障害者の定義・とらえ方と自立支援（2）	障害者の心身の特徴・在宅介護について
5	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備（1）	脳血管障害／廃用症候群
6	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備（2）	骨折／認知症／関節リウマチ
7	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備（3）	パーキンソン病／糖尿病／心筋梗塞
8	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備（4）	脊髄損傷／切断
9	疾患別・障害別にみた不自由と住環境整備（5）	内部障害／視覚障害／その他
10	相談援助と福祉住環境整備	福祉住環境整備とケアマネジメント、相談援助の進め方
11	福祉住環境整備の技術と実践（1）	玄関、廊下、階段、浴槽、キッチン、寝室、その他
12	福祉住環境整備の技術と実践（2）	建築図面の見方と建築法規の概要
13	在宅での福祉用具活用	起床、就寝、移動、排泄、入浴、その他
14	資格「福祉住環境コーディネーター2級」について（1）	問題と解説
15	資格「福祉住環境コーディネーター2級」について（2）	問題と解説

<b>科目名</b>	保育学		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ、永瀬 悦子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>[分担担当] 難波 1から6、9から15 (13回) 永瀬 7、8 (2回)</p>			
<b>達成目標</b>	<p>[到達目標] ①保育とは何かを理解する。 ②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】 ①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	教職（中学・家庭科）を履修する人。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業態度や実習態度）30点 ②途中課題（小レポート、実習日誌）30点 ③課題など（レポート、試験）40点 ①～③の総合評価60点以上で合格となる。	
<b>教科書</b>	指定なし。授業毎に資料配布。			
<b>参考書</b>	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名			
<b>学生への要望</b>	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
<b>オフィスタイム</b>	難波：火（Ⅱコマ）、水（Ⅳコマ）家政学館4F被服学研究室 不在の場合もありますので授業終了後確認してください。 永瀬：月（Ⅴコマ）16：10～17：05、木（Ⅰコマ）8：50～10：20 832研究室			
<b>自学自習</b>	予習：子どもに感心を持ち、子どもに関する新聞記事などの収集を心がける（1時間） 復習：授業内容を振り替わり、ノートにまとめる。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(4/10難波)	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
2	保育を学ぶ(4/17難波)	1) 保育とは何か ※保育を学ぶ意義や必要性について理解し、自分の子ども時代を振り返りながら人間の発達について考えていく。
3	子どもの発達①(4/24難波)	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。
4	子どもの発達②(5/7難波)	1) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。
5	子どもの発達③(5/15難波)	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親(父親・母親)のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。
6	子どもの発達④(5/22難波)	1) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。 2) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。
7	子どもの心とからだについて①(5/29永瀬)	1) 子どもの健康状態の把握主な症状の見方と対処法 子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水・咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について理解する。
8	子どもの心とからだについて②(6/5永瀬)	1) 子どもの代表的な感染症 感染症の経路と対策及び学校保健安全施行規則第19条について理解する。子どもの代表的な感染症について理解する。
9	子どもとのふれあい(6/9難波)	「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。
10	子どもの心とからだについて③(6/12難波)	1) 子どもの睡眠と成長について ※心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。2) 子どもの食事摂取について  ※子どもの成長に合わせて必要とされる栄養について献立から考えていく。
11	子どもとのふれあい④(6/19難波)	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。
12	子どものあそび(6/26難波)	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、有効的な遊具の制作体験をする。
13	様々なタイプについて(7/3難波)	1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている、子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。
14	子育て支援(7/10難波)	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。
15	まとめ(7/17難波)	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成30年度

<b>科目名</b>	手話	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	佐藤 邦子, 鎌倉 乃ぞみ		
<b>開講期</b>	IV		
<b>授業概要</b>	聴覚障害者のくらしや歴史を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。		
<b>達成目標</b>	日常生活で使用する手話表現技術の一部を理解し修得し、自己紹介などの簡単な表現を実際にできるようにする。手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。		
<b>受講資格</b>	福祉情報専攻2年生	<b>成績評価 方法</b>	学期末テスト、授業中の態度。 学期末テスト：90点 授業中の態度：10点
<b>教科書</b>	「聴さんと学ぼう！」		
<b>参考書</b>	「ろう者との対話のために」		
<b>学生への要望</b>	積極的な学習意欲を持って臨むこと。私語は厳禁です。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		
<b>自学自習</b>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	自己紹介	自分の名前を覚えよう 伝えあってみましょう ・見る力・まねる力ゲーム ・伝言ゲーム
2	ビデオ	「私の大切な家族」 感想文を書く。 指文字を覚える <ミニ講義> 手話を楽しく覚えよう
3	第1講座	自己紹介してみましょう 名前・家族
4	第2講座	あいさつしてみよう <ミニ講義> コミュニケーション方法
5	第3講座	手話がわからなかったとき 筆談、口形 <ミニ講義> 「きこえない」とは
6	第4講座	数字や時間の表現を覚えよう 誕生日 <ミニ講義> 仕事
7	第5講座	趣味のことを話そう 好き・嫌い、上手・下手、得意・苦手、できる・できない <ミニ講義> 手話サークル
8	第6講座	行きたい場所の表現を覚えよう 県名 <ミニ講義> いままでの感想
9	第7講座	病気やけがで困ったとき 「こんなときどうする？」
10	第8講座	お天気と乗り物の手話を覚えよう 住所・通学方法 <ミニ講義> 日聴紙
11	第9講座	買い物とお金の表現を覚えよう 住所・通学方法 「みんなが手話をできるようになると」
12	第10講座	ろう者の生活を知ろう <ミニ講義> 生活で困ること

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	第11講座	災害に関する手話を学ぼう <ミニ講義> ろう者と防災
14	第12講座	今まで学んだ手話を活かして話してみよう スピーチの内容を考える 劇の相談
15	第13講座	スピーチ練習 劇の練習



科目名	カウンセリング演習	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	堀 琴美			
開講期	IV			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①カウンセリングの目的や理念を理解する。 ②傾聴、受容、共感などの基本的な知識や用語を理解し、その意味や重要性を理解する。 ③他者を理解し、援助し、エンパワーすることの意味やスタンスを学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 他者を深く理解し、その人の意思や選択を尊重し、エンパワーをしてその人らしく生きることを応援する「スタンス」が理解でき、具体的な言動のイメージが持てるようになること。			
受講資格	特になし。	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（75%） 発言内容、受講態度、普段のレポート（25%）	
教科書	授業でプリントを配布します。			
参考書	「カウンセリングの話」（平木典子）、カウンセリングの理論（國分康孝）、「大学生がカウンセリングを求めるとき」（小林哲郎、高石恭子、杉原保史）			
学生への要望	カウンセリング・マインドを習得することは、将来、人助けの場面で役に立つというだけではなく、ありのままの自分を理解することや、対処能力を身に着けるという意味でも役立ちます。授業には積極的に参加し、なるべく多くのことを「感じて」「体験して」「身に着けて」ください。			
オフィスタイム	水曜日IV限、木曜日I、II限、臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：参考文献（あるいはそれ以外でも良い）の関連する部分を読んで、不明な用語について調べておく。 事後学習：授業で出てきた専門用語や新しい言葉は必ず覚え、関心をもったテーマについては参考文献に当たって関連領域のトピックを読んで理解を深めておくこと。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容、授業計画と目標、評価基準、授業運営のポリシーなどについてのガイダンス。
2	相談と援助	「わたしにとって安全な人」とはどのような人か。「あの人に相談したい」と思う時、相談に何を期待するか。2つのワークショップを通して、相談を受ける側に求められる資質と態度を考える。
3	共感的理解Ⅰ 状況把握と寄り添う心	学習用の構成事例を使って、①相手の気持ちを洞察する、②寄り添うとはどのようなことか、を考えます。
4	共感的理解Ⅱ 自分の気持ちを把握する	学習用の構成事例を使って、①聴いていてどんな気持ちになったか、②どんなアドバイスをしたいと思うか、を考えます。
5	共感的理解Ⅲ 相手の気持ちを受け止める	学習用構成事例を使って、①話しての気持ち、②聞き手の気持ち、③観察者の感想などを話し合います。
6	人格理論Ⅰ	人格の構成要素、ビッグ・ファイブ、人格検査などについて学びます。
7	人格理論Ⅱ	自分の性格やものの見方、行動特性を知り、自分が囚われている「シナリオ」に気づく。そして、表現や行動や考え方は自分で変えていけることを学ぶ。
8	認知と表現	自分の見方が全てではないこと、人はみな感じ方や表現方法が違うことを模擬的に体験する。
9	カウンセリング・マインドⅠ 受容・共感・フィードバック	ロジャーズの人間性カウンセリング理論に基づき、相手の気持ちを受け止めること、相手の立場に立って考えること、相手を信頼し尊重する基本的スタンスを学ぶ。
10	カウンセリング・マインドⅡ 相談のプロセスと行動変容	人は理解してもらうことで行動が変わる。相談の中で起こる行動変容を理解し、援助とは何かを考える。そして実際に相手の言葉にじっくり耳を傾ける「傾聴」や「オープン&クローズド・クレスチョン」などの訓練を行う。
11	エクササイズⅠ 事例学習	学習用の構成事例（1. 学校生活編）をつかって、相談のプロセスや言葉のかけ方などを練習します。
12	エクササイズⅡ 事例学習	学習用の構成事例（2. 家族問題編）をつかって、家族の中の力学や問題解決の方向などについて議論します。
13	エクササイズⅢ 事例学習	学習用の構成事例（3. 恋愛または友達関係）をつかって、依存の心理、自己と他者の境界線、自己決定を支える相談援助などについて考えます。
14	対人援助：当事者主義、選択の力、人間性の回復	その人の人生はその人が主役。当事者の意思と選択を尊重し、その人がもともと持っている力を引き出す援助の在り方を学びます。
15	対人援助理論：危機介入、倫理とルール	相談内容と緊急性の判別利用者にとっての安全とは、当事者と支援者の力関係と信頼関係、守秘義務とチーム支援、個人的な関係について、支援者の恒常性と交代の問題、支援者の安全とは。別、危機介入（非常時の強制介入と通常的意思決定）、こころの危機とは何かなどについて学ぶ。

科目名	ボランティア活動Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 必修
担当教員	山口 猛			
開講期	通年			
授業概要	この授業は、ボランティア活動Ⅰでの活動経験を活かし、学科で推奨あるいは紹介するボランティア活動により主体的に参加する事及びボランティア先を各自で探し当てて参加する事の二通りの方法によって活動し、体験を通してボランティアに対するモチベーションを高める。 さらに、これらの活動の経験を活かし、ボランティア活動の企画・運営に参加できるノウハウを身につける。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科主催ボランティア2回以上、自主参加ボランティアを4回以上実施する</li> <li>・ボランティア活動の企画・運営を理解する</li> <li>・ボランティアⅠで養った自主性・協調性を、さらに向上させる</li> </ul>			
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	学科主催ボランティア2回以上（企画・運営への参加を含む）及び自主参加のボランティアを4回以上実施し、ボランティア実習ノートを提出し、記述内容が適切であれば「認」とする	
教科書	なし			
参考書	なし			
学生への要望	「善いと思ったことを、素直に実践」をモットーに活動してください。			
オフィスタイム	月曜日2・4限、家政学館4階情報処理教育研究室口			
自学自習	事前学習：参加するボランティア活動の情報収集を行い、自分の役割を理解し、最大限にボランティア活動で発揮できるための準備であることを心がける。（目安時間 1時間） 事後学習：実施したボランティア活動結果を活動ノートにまとめて振り返り反省し、ボランティア精神の理解を目指す。（目安時間 1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	4/10オリエンテーション	授業の説明、ボランティア実習ノートの確認
2	4/17ボランティア計画	年間のボランティア活動計画を立案する。
3	4/24震災ボランティア活動の実際	震災ボランティア活動の実施方法を学び、ボランティア活動をどの様に行うか検討する。（1年生と合同）
4	5/8自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
5	5/15自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
6	5/22自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
7	5/29自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
8	6/5自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
9	6/12自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
10	6/19自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
11	6/26自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
12	7/3わくわく子ども大学ボランティア計画	わくわく子ども大学で実施するブース内容の検討および準備を行う。
13	7/10わくわく子ども大学ボランティア計画	わくわく子ども大学で実施するブース内容の検討および準備を行う。
14	7/17わくわく子ども大学ボランティア計画	わくわく子ども大学で実施するブース内容の検討および準備を行う。
15	中間報告	Ⅲ期の活動内容のまとめを行う。
16	Ⅳ期ガイダンス・夏季休業期間の活動振り返り	夏季休業中に実施したボランティア活動をまとめて、報告を行う。
17	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
18	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
19	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
20	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
22	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
23	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
24	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
25	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
26	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
27	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
28	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回～3回自主的に実施する。
29	ボランティア実施後ミーティング・発表会準備	各自が参加したボランティアに関し、お互いに話し合い認識を高める。(振り返り) ボランティア活動の内容をパワーポイントや模造紙にまとめ、プレゼンテーションやポスターセッションの準備をする。
30	最終報告会	ポスターセッションやプレゼンテーションで成果の報告を行う

平成30年度

科目名	パソコン演習 I	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択
担当教員	古山 幹雄		
開講期	Ⅲ		
授業概要	表計算ソフトや文書作成ソフトの応用力を身に付け、社会に出てから実際に役立つスキルを習得する。授業では、実際の使用場面を想定して演習を行う。		
達成目標	<目標> 分からない事があった時、インターネットや参考書を調べ自力で解決するスキルと習慣を身につける。		
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	課題、レポートの総合評価100点満点で60点以上で合格。100点の内訳：レポート10点、課題5件で90点。 (課題1:10点、課題2:20点、課題3:30点、 課題4・5:各15点)
教科書	なし 授業時にプリントを配布		
参考書	<情報処理 I の教科書> 学生のためのOffice2016&情報モラル <一般図書> よくわかるMicrosoft Office Excel 2016 応用 (FOM出版) よくわかるMicrosoft Office Word 2016 応用 (FOM出版)		
学生への要望	日頃からパソコンを使用し、パソコン検定試験やMOS(Microsoft Office Specialist)試験に合格出来る様な実力を身につけてください。		
オフィスタイム	非常勤講師控室 月曜日：(10:10~10:30、12:00~12:50) 水曜日：(12:00~12:20)		
自学自習	予習：各回の内容の対象となる箇所を「情報処理 I」の教科書で動画PDFで勉強しておく。(約1時間) 復習：提示された課題をしっかりと実施する。(約1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス/スキル確認	本講義の目的や進め方、内容、評価方法について述べる。パソコン資格の紹介をする。 WordとExcelの練習問題を実施し復習を行う。 Excel「復習問題表グラフ」とWord「復習課題」の実施
2	Excel「復習問題表グラフ」の解答とWord「復習課題」の実施	Excel「復習問題表グラフ」を元に基本機能（基本計算、セルの書式、絶対参照、グラフ機能、関数ボックス）を確認する。 また、Wordの復習課題作成に必要な表、インターネット上の画像の取り込み、図のWordへの貼付け等基本機能を復習する。
3	Excelのグラフ機能応用	前回作成した「復習問題表グラフ」を元にEXCELの持つグラフの機能を確認する。 グラフの機能：グラフウィザード、グラフの種類、棒/円グラフ、複合グラフ、3Dグラフ、絵グラフ 課題1の提出：「Word 復習課題」
4	Excelの応用家計簿の作成①	「家計簿」の基本レイアウトの作成し、基本的な計算式の入力とセルの書式設定をする。応用として曜日の表示やセルへの条件付き書式設定を学ぶ。 応用機能：表示形式のユーザー定義、条件付き書式設定
5	Excelの応用家計簿の作成②	「家計簿」の見栄え良くするための関数の使い方や入力を簡単にするためのテーブルの利用を学ぶ。 応用機能：IF関数のネスト、テーブル参照、IFと他関数の組合せ、規定外文字/数字の入力、空白セルの処理
6	Excelの応用家計簿の作成③	前回までに学習した関数や機能を使用して家計簿を完成させ提出する。 提出課題2：家計簿
7	Excelの応用 外貨定期預金①	外貨定期預金の満期受取額を試算するシートを作成する。これによりシート間連携処理、少し複雑の表のデザイン方法等を学ぶ。応用機能：利率、利息計算、単位のユーザー定義、名前定義、外貨レート、シート間連携、セル書式ユーザー定義
8	Excelの応用 外貨定期預金②	税引き後の満期額と利息額を計算し、さらに円ベースでいくらになるか計算する。税引き後利息の計算、通貨書式の設定方法を学ぶ。応用機能：利息計算、税引後利息、通貨スタイル、円換算、
9	Excelの応用 外貨定期預金③	円受取額をグラフ化し、為替レートをセルの外で変更できるようにする。 応用機能：指定範囲のグラフ化、スピンボタン
10	Excelの応用 外貨定期預金④	外貨定期預金の完成及び提出 提出課題3：外貨定期預金
11	Word応用 Healthy Report①	ヘッダーとフッターの挿入変更、文書レイアウトおよびページ設定変更をベースとなる文書に設定し、より高度な文書のレイアウトを学ぶ。 応用機能：ヘッダー-フッター、スタイルの適用
12	Word応用 Healthy Report②	段組み変更、セクションの設定をベースとなる文書に設定し、セクションの区切り毎に書式が変更できることを学ぶ。 応用機能：段組み、セクション、ページ毎の用紙使用の変更
13	Word応用 Healthy Report③	「Healthy Report」の完成及び提出 提出課題4：Healthy Report

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	差し込み印刷① 住所ラベル、文書	EXCELで住所録を作成する。それを用いて住所ラベルを作成する。 はがきの文面ウィザードで「暑中見舞い」の作成と宛名面の差し込み印刷を行う。 応用機能：文面ウィザード、定型句、差込印刷、住所録
15	差し込み印刷② 暑中見舞い完成、レポート課題の実施	はがきの文面ウィザードで「暑中見舞い」の作成と宛名面の差し込み印刷を行い完成させる。 提示されたレポート課題に従ってレポートを作成する。 提出課題5：暑中見舞い（文面、宛名面） レポート提出

平成30年度

科目名	パソコン演習Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	古山 幹雄			
開講期	IV			
授業概要	これまでに学習してきたEXCELの操作スキルを体系的に学習し、事務処理に必要なスキルを身につける。 Excel 2016 MOS (Microsoft Office Specialist)試験 対策テキストを基に学習するのでMos試験の対策ともなる。			
達成目標	MOS試験 Excel 2016 に合格する程度のスキルを身につける。			
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	100点満点（練習問題5題で各10点。総合課題50点） で60点以上で合格。	
教科書	MOS対策テキスト Excel 2016（日経BP社）			
参考書	<情報処理Ⅰの教科書> 学生のためのOffice2013&情報モラル <一般図書> MOS攻略問題集 Excel 2016			
学生への要望	日頃からパソコンを使用し、パソコン検定試験やMOS(Microsoft Office Specialist)試験に合格出来る様な実力を身につけてください。			
オフィスタイム	非常勤講師控室 木曜日：12:30～12:50			
自学自習	予習：各回の該当箇所を教科書で確認しておく。1時間 復習：各回の練習問題を実施する。1時間			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス/ワークシートやブックの作成	本講義の目的や進め方、内容、評価方法について述べる。MOS(Microsoft Office Specialist)資格の紹介をする。 ブックの作成、テキストファイルからのデータのインポートを学習する。
2	ワークシート操作およびセルやセル範囲の操作	ワークシートの追加/削除、ワークシートの移動/コピー学習する。また、セルやセル範囲のデータ置換、切り取り、コピー、貼り付けやセルの挿入/削除およびオートフィル機能を使ったデータ入力を学習する。
3	ワークシートやブックの書式設定	ワークシート名やシートの見出しの色の設定、ページ設定の変更、列や行の挿入/削除、ヘッダーやフッターの挿入、ブックのテーマの変更を学習する。
4	ワークシートやブックのオプションと表示のカスタマイズ	ワークシート、列、行の非表示、再表示の設定、ズーム機能、ウィンドウの分割や整列、ウィンドウ枠の固定、ブックの表示の変更、クイックアクセスツールバーを学習する。
5	セルやセル範囲の書式設定	セルの結合、セルの配置やインデントの変更、セル内の文字の折り返し、数値の書式の設定、フォントの設定、罫線や塗りつぶしの色の設定、スタイルの適用、書式のコピー/貼付機能を学習する。
6	ワークシートやブック内の移動および条件付き書式	ブック内のデータ検索、名前付きセル、セル範囲、ブックの要素への移動、ハイパーリンクの挿入削除を学習する。
7	印刷と保存	印刷範囲の設定、ブック単位の印刷の操作、拡大縮小印刷、複数ページのワークシートにタイトル行とタイトル列の繰り返し表示を学習する。また、形式を変更しての保存、互換性、非表示プロパティや個人情報、アクセサビリティの問題の検査、ブックのプロパティの変更を学習する。
8	関数を使用したデータ集計	数式でのセル参照方法、SUM関数、MAX/MIN関数、AVERAGE関数、COUNT関数について学習する。
9	関数を使用した条件付き計算	IF関数、SUMIF関数、AVERAGEIF関数、COUNTIF関数について学習する。
10	関数を使用した文字列の整形/変更	以下の関数を使用した文字列の整形/変更を学習する。 LEFT関数、RIGHT関数、MID関数、UPPER関数、LOWER関数、PROPER関数、CONCAT関数、CONCATENATE関数および数式の表示
11	グラフの作成	新しいグラフの作成、行と列の入れ替え、グラフの書式設定を学修する。
12	オブジェクトの挿入および書式設定	画像の挿入/編集、テキストボックスや図形の挿入/編集、オブジェクトのプロパティの変更を学習する。
13	テーブルの作成/管理	セルの範囲からExcelのテーブル作成、テーブルに行や列の追加/削除、テーブルのスタイルと設定オプションの管理、集計行の追加を学習する。
14	テーブルのフィルター	レコードのフィルター、データの並べ替え、重複レコードの削除について学習する。
15	総合演習	これまで学習した内容の理解度を確認し、今後のスキルアップに役立てる。

科目名	情報倫理	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
担当教員	古山 幹雄		
開講期	Ⅲ		
授業概要	倫理は安定した社会を築くための基盤であり、その現代社会は情報化が進展している。本講義では情報を扱う場合にどのような倫理観が必要となるのか、またどのようにすれば安全の確保ができるのかについて学び、実社会に出た時にネット上で人に迷惑をかけないまた犯罪に巻き込まれないような知識を身につける。		
達成目標	「目標」 ネット社会の基本的仕組みを知り、色々なリスクの回避やリスクへの対応を出来る様にする。		
受講資格	福祉情報2年	成績評価 方法	レポート1回：10点、e-learningの学習成果：20点（特別テスト2回の結果も含む）、ペーパー試験：70点の合計100点満点で60点以上で合格。
教科書	教科書は指定しない。授業時プリント配布		
参考書	<情報概論の教科書> 「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版		
学生への要望	日頃からハイテク犯罪や倫理の問題を意識して、ニュース等を見聞き、関心を持つこと。		
オフィスタイトム	非常勤講師控室 月曜日：(10:00~10:30、12:00~12:50) 水曜日：(12:00~12:20)		
自学自習	予習：日頃からセキュリティに関する事件を調べておく。また、情報概論の教科書で各回のテーマに添った箇所を復習しておく。(約1時間) 復習：e-learningを実施する。(約1時間/テーマ)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義の目的や進め方、評価方法について述べる。また、「情報倫理」とは何かについて概要を理解する。e-Learningの活用について説明する。
2	ネットワーク社会	ネットワーク社会に参加するにあたって、最も基本的な心構えや注意事項を学ぶ。これにより、被害にあわない、他に迷惑をかけないためのポイントを理解する。<キーワード> 情報、倫理、サイバー犯罪
3	ネットワークとインターネット	ネットワークやインターネットの基本的な仕組みとインターネットで提供されているさまざまなサービスについて学ぶ。<キーワード> ネットワーク、インターネット、ネットワーク社会、ネット上のエチケット、インターネットの代表的サービス
4	ユーザ認証とアカウント	アカウントの大切さや、より安全なパスワードの設定方法などを学ぶ。これにより、実際にパスワード設定する場面で困らされにくい文字列で設定できるようにする。<キーワード> アカウント、パスワード、ユーザID、クッキー
5	情報受発信と情報検索 ①	メールを使った悪質ないたずらや犯罪も増加傾向にある。自らがメールのマナーを身につけるとともに、自己防衛のための知識を学ぶ。<キーワード> メール、チェインメール、メーリングリスト、電子掲示板、チャット パスワードチェッカー URL <a href="https://www.microsoft.com/ja-jp/security/pc-security/password-checker.aspx?wt.mc_id=site_link">https://www.microsoft.com/ja-jp/security/pc-security/password-checker.aspx?wt.mc_id=site_link</a>
6	情報受発信と情報検索 ②	悪質なサイトや有害な情報も混在しており、それに対応したWebページを見る側の知識や心構えを学ぶ。また、携帯電話での心構えや知識も学ぶ。<キーワード> 検索エンジン、WEBページの作成、ブログ、WIKI
7	ネットワークセキュリティ	ネットワーク利用者の一人ひとりが身に着ける必要があるネットワークセキュリティについての正確な知識を学ぶ。<キーワード> ネットワークセキュリティ、コンピュータウイルス、不正アクセス、DOS攻撃、踏み台、ボットネット
8	情報の流出とサイバー犯罪 レポート1	個人情報も含めた機密情報の流出は、流出時点で被害は甚大である。サイバー犯罪の防止のビデオを上映し、具体的にサイバー犯罪の危険性、防止策について学ぶ。<キーワード> コンピュータウイルスと情報流出、スパイウェア、ファイル交換、記憶装置の紛失 レポート課題：最近のサイバー犯罪について
9	ネットワーク社会と生活 ①	インターネットの普及で、様々な機関がインターネットを通じてサービスを開始した。そのため社会生活も大きく変化している。社会の変化とネットサービスについて学ぶ。<キーワード> ISP、電子商取引、BtoB、BtoC、GtoC
10	ネットワーク社会と生活 ②	この項目に関するケーススタディーをする。ケーススタディーを通して、問題の所在、原因、対応策、再発防止のための対策を理解し、認識する。<キーワード> インターネットショッピング、トレーニング、バンキング、オークション
11	ネットワーク社会の問題とトラブル	ネットワーク利用の際の影の部分を中心に学ぶ。ネットワークを利用することは非常に便利な面があるが、一方では、不備、脆弱面も多々ある事を理解する。<キーワード> デジタルリテラシー、情報の信頼サイバーテロ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	ネットワーク社会の問題とトラブル②	犯罪や被害事例を学び、自分を守る術を身につける。ネットワークの犯罪は、本人が全く認識しないまま巻き込まれることがあるが、知識の有無でかなりリスクが異なる事を理解する。 <キーワード>ネットワーク犯罪の傾向、スパムメール、マルチ商法、秘ミ講、オークション詐欺、不正請求
13	ネットワーク社会を取り巻く法律 ①（全般、個人情報保護法）	個人生活の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を全般的に学ぶ。生活の中で密接に関連して来る個人情報保護法について詳しく学ぶ。 （個人情報保護法、児童買春防止法、訪問販売法）
14	ネットワーク社会を取り巻く法律 ②（著作権法）	ビジネス社会や日常生活において密接に係る著作権法について、最近の法律改正事項も含め学習する。授業の中では、政府が作成したビデオを活用する。
15	ネットワーク社会を取り巻く法律 ③（その他のサイバー法）	社会活動の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を学ぶ。法律の改正とネットワーク社会の発展の関係について学び、仕事の中で生かせる知識を得る。 （不正アクセス禁止法、電子署名法、プロバイダ法、）



科目名	情報メディア論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	高度情報化社会といわれる21世紀、我々は情報を得ることなくしてよき生活を営むことは考えられない。その情報を伝えるメディアは人間のあらゆる社会的な生活にとって、また人間らしい生活を営む上で必要不可欠なツールとなっている。メディアの歴史と現状を見つめ、充実した社会生活を営むためのメディアの利用方法を身につける。		
達成目標	1. 日常生活でメディアを活用する力を身につけること 2. 情報の受け方・利用の仕方を理解すること 3. 各種メディアの特性を理解すること		
受講資格	特になし	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは、授業態度・課題・レポートにより評価する。 授業態度20%、実習課題30%、レポート50%とする。
教科書	担当教員作成のプリント		
参考書	なし		
学生への要望	テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで毎日必ずニュースに触れること。随時、社会の出来事に関する感想・意見を求めるので積極的に発言すること。		
オフィスタイム	月曜日2・4限、家政学館4階情報処理教育研究室口		
自学自習	事前学習：1週間の時事についてさまざまなメディアを通して情報を収集し、メディア特性を理解するよう努める（1時間） 事後学習：授業で学んだ内容を振り返り、ノート整理を行うこと（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス メディアの歴史	メディアとは何か、生活情報の入手手段としてのメディアはいかに変遷してきたか、日本におけるメディアの歴史と展開を見る。またマスメディアの現状と日常生活との結びつきを考える。
2	マスメディアの理解 -新聞- (1)	最も古いマスメディアである新聞の歴史と、情報提供者として果たしてきた役割を見る。また新聞の紙面構成とニュース記事のスタイル、読み方などを実際の新聞を使って説明する。
3	マスメディアの理解 -新聞- (2)	地元新聞社の担当者をゲストに迎え、新しい時代の新聞、読者の新聞への期待と新聞社の対応について理解する
4	マスメディアの理解 -テレビ- (1)	日常生活の情報入手源として最も身近なテレビ・ラジオの現状とシステム、重要な社会情報としてのニュース及びニュース番組の制作プロセスを解説する。また視聴者の放送メディア利用スタイルを見つめ、デジタル時代の利用法について考える。
5	マスメディアの理解 -テレビ- (2)	県内のテレビ局を訪れ、テレビ番組の制作から放送までのシステムを学ぶとともに、情報の送り手（アナウンサー、ディレクター、記者）との懇談を通して、情報の受け方、利用の仕方を学ぶ。
6	デジタルネイティブ世代の ニューメディア (1)	デジタルネイティブ世代（生まれた時からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代）が馴染みのある従来のマスメディアに問われないニューメディアの理解を目的に、歴史と特徴を説明する。
7	デジタルネイティブ世代の ニューメディア (2)	ソーシャルメディアの情報発信手段として重要視されているYoutube等のインターネット動画配信について学び、従来のマスメディアとの比較を行い、メディアが持つ目的や役割の違いを理解する。
8	ソーシャルメディアの理解	容易に情報の受け手（情報メディアから情報を得ていた立場）から情報の送り手（LINE、Twitter、facebook等で自ら情報を作成する立場）になれるソーシャルメディアの特性の理解を目的に、共通テーマで記事を作成する実習を行う。
9	新しい情報メディアの理解 (AR・VR)	技術の進歩により、新たな情報表示の方法が普及しつつある。現実の空間に情報を重ね合わせて表示する技術であるAugmented Reality (AR) と、仮想の世界を体験できる技術であるVirtual Reality (VR) の特徴や可能性を理解する。
10	メディアの作成 (1)	従来のメディアと、新しいメディアを融合させた作品を制作する。具体的には、ある共通テーマを設定したオリジナルチラシ（紙媒体）を作成するグループワークを行う。紙媒体のチラシに、「ソーシャルメディアのリンク」「AR機能」を付加し、従来のメディアであるチラシにはない情報発信の可能性を知る。
11	メディアの作成 (2)	第10回の作業を継続し、作品を完成させる。
12	メディアの作成 (3)	第11回の作業を継続し、作品を完成させる。
13	メディアの評価	第12回で作成したチラシのプレゼンテーションを行う。チラシを手にした相手にどの程度、正確に情報伝達が可能であったか、魅力をアピールできたかなど、作成したメディアが果たした能力を評価する。
14	情報メディアの将来	メディアは、インターネットの普及と情報媒体の高性能化により、今後も進化が進んでいくと予想される。現時点で近い将来に世に出てくるであろう情報メディアをまとめたビデオ教材の視聴と解説により、情報メディアへの柔軟な理解を行う。
15	総合まとめ	課題レポート「日常生活にメディアをどう活かすか」を作成。授業の感想と質疑応答

科目名	情報基礎学	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	Ⅲ		
授業概要	この講義では問題解決や情報処理に必要な数学および基本的な情報の表現について学ぶ。これらの内容のなかでも特にコンピュータを用いた情報処理、とりわけ表計算・数値計算・シミュレーションで必要となる数学を学ぶ。		
達成目標	本講義の目標は (1) 簡単な数字の計算ができるようになること、(2) 情報量などの概念を理解すること、(3) 問題に応じた立式をできるようにすること、(4) 簡単な式を解くことができること、である。		
受講資格	情報処理Ⅰ・基礎能力トレーニングの単位を取得済であることが望ましい。	成績評価 方法	課題1・課題2の結果および理解度確認ペーパーの提出状況・内容により評価する。割合は課題1・課題2を各 40% とし、理解度確認ペーパーの提出状況・内容は 20% とする。課題は難易度を考慮し得点調整を行うことがある。また理解度確認ペーパー提出は進捗の関係から提出を求めない回が生じうる。その場合、提出を求めた回数と提出された回数から、提出状況・内容を判断する。
教科書	資料を配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡田 博美, 情報ネットワーク, 培風館 (1994)</li> <li>芳沢 光雄, 高校「数学基礎」からの市民の数学, 日本評論者 (2000)</li> <li>大村 平, 論理と集合のはなし, 日科技連 (1981)</li> </ul>		
学生への要望	参考書などを用い該当分野の内容について事前に触れておくこと。また授業内容を復習し、問題を数多く解くこと。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 木曜日 12:50-14:20, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	配布資料の例題を自分で解いてみる (0.5時間) 授業で解いた演習問題等を再度自分で解いてみる (1時間)。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	前半では、講義の目的・内容について概説する。成績評価の方法や本講義を受ける際に参考となる事柄について説明をする。後半では次回以降の準備として除算についてふれる。
2	整数と有理数	基本的な数に自然数があり、これを拡張したものが整数である。また整数をさらに拡張すると有理数へとつながる。ここでは自然数・整数・有理数間の差異を理解し、その演算規則について学ぶこととする。また有理数の計算に含まれる同値の概念についてふれる。
3	巾の演算	積の概念を発展させたものに巾がある。概念的には積と商で理解できるが、巾の演算に習熟すると様々な場面で計算が簡略化される。ここでは巾とその演算規則について学び、なぜこのような表現が必要とされているのか理解する。
4	情報量1	情報量を表現するための基本的な事項を学ぶ。具体的には情報の単位や情報量について学ぶ。情報の単位であるビットやバイトがどのような単位であるか学ぶ。またこれらの情報を表現する際に用いられる表現方法である 10 進数・2 進数・16 進数について学び、2進数・10 進数・16 進数間の変換方法を学ぶ。
5	情報量2	2進数・10 進数・16 進数間の変換方法を具体例を通して学ぶ。また文字・画像・音がどのように表現され、その情報量がどの程度であるのか、具体的に計算をすることで情報量の感覚を掴む。
6	データの圧縮と解凍	データの保存や送受信の際に重要な技術となる、データの圧縮と解凍について学ぶ。可逆圧縮と非可逆圧縮の違いを理解し、現在使われているファイル形式にどのようなものがあるか学ぶ。実際に作業できることが重要であるため、圧縮ソフトを利用して実際に圧縮・解凍を行い、どの程度ファイルサイズが変化するか把握する。
7	文字と文字式	数を文字に置き換え抽象化することで、種々の計算を一般的に扱うことができるようになる。表計算ではアドレス、プログラムでは変数が対応しており、情報処理を行う上で文字の取り扱いが必須である。ここでは文字を用いた抽象化や式の変形などを学ぶほか、文字を使う際の注意点を学ぶ。
8	比率	数の概念を有理数へと拡張したことにより、整数比を有理数で表すことができる。これらの比と有理数の関係や扱い、割合を表す際に利用するパーセント・ppm・ppb などの単位について学ぶ。また比率で示された諸量を含む計算方法を学ぶ。
9	課題 1	これまで学習した内容について課題を実施をする。課題実施後課題内容の解説をする。課題を通じ、これまでの学習内容を確実なものにする。
10	一次関数	一次関数は連続量を扱う数学では基本的な関数である。微分とも関連し、統計学における回帰での利用など応用範囲はきわめて広い。ここでは一次関数とグラフの関係や回帰式などについて学ぶ。
11	連立方程式	様々な量の関係の関係を求めようとするとき、連立方程式が現れることがある。ここでは、問題から式を構築し得られた方程式を解く方法や、解の検討方法を学ぶ。代入法などの基本的な方法だけでなく、一般化を考慮し行列式を使った解き方などについても触れる。
12	連立方程式の応用	連立方程式の応用例を学ぶ。具体的な問題を通して連立方程式がどのように現れるのかを知り、立式した連立方程式を解いてその有用性を理解する。また同じ問に対し様々な方法により解を求め、それぞれの解の求め方の特徴を理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	数列と漸化式	数の並びを数列と呼ぶ。数値計算を始めとする情報処理では全て離散化した量を扱うため、数列・漸化式は極めて重要な概念である。ここでは数列および漸化式の導入を行い、数列や漸化式の基本的な扱い方について学ぶ。
14	漸化式の応用	漸化式の具体的な応用例を取り上げ利用方法を学ぶ。科学各分野で現れる種々の現象を、漸化式の視点から捉えなおす。また実用的な観点から、表計算におけるアドレスとの対応関係を演習を通して理解する。
15	課題2	本講義で学習した内容について課題を実施する。課題実施後課題内容の解説をする。課題を通じ、これまでの学習内容を確実なものにする。

科目名	ビジネス基礎Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
担当教員	山口 猛, 知野 愛, 阿部 優子, 田辺 真弓, 古山 幹雄, 奥秋 和夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>ビジネス基礎Ⅰを踏まえ、ビジネス社会の中で実際に使用する場を想定し、実践することで確実に自分のものとしてゆく。さらに、ビジネス現場の制度やルールを理解した上で、自分の将来ビジョンを作成する。</p> <p>第01回 石村、田辺、奥秋、知野、古山、山口、阿部  第02回 第03回 山口  第04回 第05回 知野  第06回 第07回 田辺  第08回 阿部  第09回 第10回 奥秋  第11回 第12回 古山  第13回 第14回 阿部  第15回 山口、阿部</p>			
達成目標	<p>1. 自分の将来ビジョンを明確にする。  2. ビジネス社会の基本ルールを理解する。</p>			
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	課題・レポート90点(6×15点)、最終レポート10点による総合評価	
教科書	「自信がつくビジネス」 「就職のための履歴書の書き方と面接の心がまえ」			
参考書	なし			
学生への要望	この授業は、少人数グループで進める形式となるので、各人が積極的に参加・発言し、学生間及び担当教員と密度の濃いコミュニケーションが取れるよう努力願います。			
オフィスタイム	オムニバスの為授業コーディネータの山口が質問相談を受けます。 家政学館4階 情報処理教育研究室 月曜日：Ⅱ限			
自学自習	予習：教科書の授業該当箇所を事前に読んでおくこと。(約1時間) 復習：出された課題を実施期限までに必ず提出すること。(約1時間～2時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	この講座の目的・意義、講義の進め方及びシラバスについて説明する。
2	自己形成に向けて一歩踏み出すために——その1	自己形成に向けて踏み出すためには、将来のビジョンを形成するのが有効である。このため、ビジネス基礎Ⅰではパーソナルブランディングを学び、自分の長所と短所を整理し、自分のなりたい将来像を具体的に検討するマインドマップを作成した。第2回では、ビジネス基礎Ⅰで作成したマインドマップの更新作業を通して、就職活動に求められる履歴書やエントリーシート記載内容に具体的に掘り下げていく。
3	自己形成に向けて一歩踏み出すために——その2	架空の会社を想定して、班員全員で1つのブランディングマインドマップを作成する。この作業を通して、仕事に求められる「自分の長所と短所に向き合いながら組織の一員として能力」について議論していき、最終的には自分が将来、仕事に取り組む際の自己形成の考え方を理解する。
4	採用試験・筆記試験対策	採用試験の適性検査としてよく使用されるものにSPI検査がある。そのSPI検査のうち言語的能力検査の問題を解く練習をする。ことばの意味、ことわざ、四字熟語、慣用句等の問題を実際に解くことにより、自分の盲点や弱点に気づき、それを乗り越えられるようにトレーニングする
5	採用試験に挑戦しよう	SPI試験の中の文章読解、国語常識、内容把握など、実践問題を数多く解いてみることで、実践力を養う。また、解答の解説やポイントを学ぶことによって、基礎知識をしっかりと整理し、基本的な知識を確実に身につけるようにする。就職採用試験対策として、実践的に問題に数多く取り組み、問題に慣れることを目的とする
6	ビジネス文書の概要を知ろう	ビジネス文書とは仕事のやり取りをする上で必要な書類のことを言う。ビジネス文書を書くに当たっては、情報を正確に伝達することが必要である。ビジネス文書には社内文書と社外文書があるが、それらが具体的にはどのような文書であるかを知り、それぞれの書き方のポイントを学ぶ。
7	ビジネス文書を書いてみよう	前回学んだビジネス文書の形式をより理解し、実践力をつけるために、実際にビジネス文書を書いてみる。情報を正確に伝達するとともに、意思を明確に表現し、説得力のある文章を構成するにはどのようにすればよいかを社内文書と社外文書を書くことによって学ぶ。
8	確認演習	中間段階で実践力を確認する意味で、秘書検定試験出題される内容に準じた演習を実施する。
9	面接のポイントと言葉づかい	現代社会で何よりも求められるのがコミュニケーション能力。そしてその能力を見るために最も重要視されているのが就職試験の面接。就職活動を前に、模擬面接を行って面接の受け方を学ぶとともに、敬語を中心とした社会人としての言葉づかいと自己表現能力を身につけることを目的とする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	ビジネス現場のコミュニケーション	晴れて社会人ともなれば、いろいろな場面で人に説明する機会が増える。説明の上手、下手は才能ではなくコツがある。便利で分かりやすい説明のコツを実習で体得し、日常生活に生かせるように、応用的な課題に取り組む。
11	交際のマナーその1	式典のいろいろ・式典、パーティーの準備・謝恩会の立案計画について 会社における式典の準備と計画。会社における式典の種類を知り、それらの準備や役割などを学ぶ。ここでは謝恩会の立案計画し模擬実践をしながら学ぶ。
12	交際のマナーその2	慶事、弔事の基本マナーについて ・慶事(結婚のお祝い、招待状の返事に関するマナー、服装、披露宴でのマナー、水引の種類と結び方等) ・弔事(香典の形式と書き方、弔電の形式と打ち方、服装等)
13	仕事の取り組み方	担当業務や業務の遂行について必要となる能力ややりがいについて学ぶと共に、仕事の取り組み方としてPDCAの考え方と実践、課題意識の重要性、状況対応と問題解決について具体的な状況を設定した上でグループ討議を実施し、理解を深める。
14	働く事の意義	職業への期待や仕事のやりがい、職業人としての資質や課せられた責任について学ぶとともに今では、1つの労働形態となっている派遣やフリータと正規雇用の違いについて考える。また、ビジネス社会には慣行や法律に裏づけされたルールや制度が色々ある。ここでは、その制度やルール及びその基となる法令・法規の基本について学ぶ。
15	発表	「ビジネス基礎」のまとめとしてグループ発表をするために、グループ討議を行ないパワーポイントで発表準備をする。その際、討議の司会、シナリオやコンテンツの作成、発表者等役割分担を各グループで決めて進める。

科目名	人間関係論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	堀 琴美			
開講期	IV			
授業概要	本講では“生活に役立つ臨床心理学”を基礎のスタンスとして、健康的な対人関係のあり方、アサーティブなコミュニケーション技術、問題解決のプロセスと方法、依存や支配の問題、電子メディアとメンタルヘルスなどについて学習します。			
達成目標	<b>【達成目標】</b> ①アサーションの基本理念や、相手に分かりやすい表現方法を習得する。 ②自分の性格特徴や、他者を理解するための広い視野の大切さを理解する。 ③対人関係における心の働きや、対等な関係における意思と選択の重要性を理解する。 ④暴力や支配、依存などの問題について理解し、問題発生の予防と対策を理解する。			
受講資格	家政科福祉情報専攻2年	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 受講態度、発言や発表の内容（20%）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布。			
参考書	「アサーティブ・コミュニケーション」（PHP、1200円）、「よくわかるコミュニティ心理学」（ミネルヴァ書房、2520円）			
学生への要望	理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきたいと考えています。学生には、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感を駆使し、積極的に参加、発言してもらいたいと思います。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅲ限 臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：キーワードを調べてノートにメモをする。参考文献の関連箇所を読んで理解しておく。 事後学習：授業の中で出てきた重要な概念や用語については、ノートを確認して必ず覚えておくこと。また、不明な用語は調べてノートすること。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	本講の目標、授業内容、授業のポリシー、学生自己紹介などを行います。
2	アサーティブな自己表現Ⅰ	ポジティブな表現やニュートラルな表現方法、相手に責任を転嫁しないアイ・メッセージ、敢えて「言わない選択」をすることなど。
3	アサーティブな自己表現Ⅱ	構成事例を使って、具体的な問題が起きたときの解決プロセスと、アサーティブな表現を使った伝達方法、相手に依存しない意思決定などについて考えます。
4	アサーション・ステップアップ	大切だった人との関係解消や厳しい状況下の決断など、人生には逆境や孤立に耐えなければならないときもあります。そんな時に大切な選択と意思決定、自己肯定感などについて考えます。
5	自己理解	円滑な人間関係形成のためには、自分をよく理解していること、そして相手を一生懸命に理解しようとする姿勢が大切です。まずは、自己理解のために心理テスト（性格検査）をやってみましょう。
6	他者理解Ⅰ	視点が変われば解釈も変わる。自分の「思い込み」が問題を複雑化することもあります。ここではステレオタイプや偏見、差別の心理について学びます。
7	他者理解Ⅱ	同じものを見て、聞いて、味わっていても、感じ方は人それぞれ。認知・表現の多様性、性の多様性について学びます。
8	心の構造と適応する力	こころの構造、こころの要素、人間の持つ適応機制（防衛機制）について学びます。
9	DV・デートDV・虐待	人はなぜ愛する人に暴力を振るうのか、サイクル・オブ・バイオレンス理論、支配の力学、依存的関係などを考えます。
10	支配と依存	「支配」とは何か。人はなぜ支配と愛情を取り違えてしまうのか。対等な人間関係を形成するために何が重要なのかについて考えます。
11	健康と安全のための選択Ⅰ	女性が自身の健康と安全を守り、他者の健康と安全を守って生きていくために、正しい性の知識と意識、性の自己決定、意思表示とコミュニケーションなどについて考えます。
12	健康と安全のための選択Ⅱ	なぜ女の子に教育が必要なのか、女性を取り巻く社会の問題や複雑化・多様化する社会の中での情報収集や教育の大切さについて考えます。
13	メディアとメンタルヘルスⅠ	電子メディアと健康について。スマホ依存やゲーム依存が何がもたらすのかを取り上げます。
14	メディアとメンタルヘルスⅡ	子どもの発達段階とメディアの影響、ゲームの進化、言葉の発達などについて考えます。
15	まとめ	まとめと補足。もう少し深めたいテーマ、最新の情報や課題についての質疑、討論、いくつかのキーワードと授業の感想など。

科目名	ビジネスホスピタリティ		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
担当教員	知野 愛, 田辺 真弓, 吉田 いくよ			
開講期	IV			
授業概要	就職活動や社会人となってから役に立つように、ビジネス面を意識したホスピタリティの精神や実践例を学ぶ。(演習2単位)			
達成目標	授業の目標は、地域創成に関わる際に、どのような職業に就いても様々な場面においてホスピタリティの精神は重要となる。ホスピタリティの理念、実践例を学ぶことを目標とする。達成目標は、授業で学んだ内容を最終的に振り返り、レポートにまとめて提出し発表する。			
受講資格	福祉情報専攻2年生、地域創成学科1年生	成績評価方法	①各テーマのレポート60点、②最終レポート40点	
教科書	指定しない			
参考書	必要に応じて指示			
学生への要望	その回のキーワードを自主的に調べるなど、自発的に学ぶこと。			
オフィスタイム	金曜IV限、月曜IV限、場所：家政学館4階福祉情報専攻研究室			
自学自習	事前学習:シラバスをよく読み、キーワードを調べておくこと(1時間)、事後学習:授業内容を踏まえて、レポートを作成し次回までに提出する(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス、ホスピタリティを学ぶ意義	授業の進め方、今後の予定をシラバスに基づいて確認する。「ホスピタリティ」が必要とされている理由等について学ぶ。
2	衣服とホスピタリティ(田辺先生)	社会人として知っておくべき冠婚葬祭時の服装やマナー、衣服とホスピタリティについて学ぶ。
3	第一印象の重要性(外部講師①)	第一印象の重要性、社会人として意識すべき身だしなみ、髪型や表情による印象の違いなどを学ぶ。(資生堂ジャパン東北支社福島オフィス)
4	身だしなみとしてのメイクアップ(外部講師②)	身だしなみの一つとして基礎的なメイクアップの方法を実践的に学び化粧の精神的効用、周囲の人々への印象なども学ぶ。(同上)
5	社会人としての心構え(吉田いくよ先生①)	社会人としての心構え、敬語と言葉遣いの基本、クッション言葉、職場での態度、心得ておくべき点を具体的に学ぶ。
6	パフォーマンス技術を磨く(吉田先生②)	自己表現の重要性。自分の思いをいかに相手に伝えるか、様々な年齢の人々とコミュニケーションをとれるようになる。
7	電話対応の仕方(吉田先生③)	電話のかけ方・受け方の基本、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への対応等を実践的に学ぶ
8	ビジネスシーンでの様々な留意事項(吉田先生④)	郡山市内の企業・商店での様々な事例、最近の傾向、ビジネスシーンで見かける避けるべき態度や話し方、留意点を具体的に学ぶ。
9	ホテルでのホスピタリティおもてなしの心(外部講師)	ホテルでの「おもてなしの心」の実践、心掛けていること、様々な事例等について、ホテルの女将からお話を伺う。(ホテル華の湯社長室室長)
10	ホテルでのホスピタリティ実践例( " )	ホテルでの「おもてなしの心」の実践、心掛けていること、様々な事例等について、ホテルの女将からお話を伺う。(同上)
11	この地域におけるホスピタリティの実践例(1)	私達の住むこの地域で、どのようなホスピタリティの実践が行われているだろうか、実践例を具体的に知る。(その1)
12	この地域におけるホスピタリティの実践例(2)	私達の住むこの地域で、どのようなホスピタリティの実践が行われているだろうか、実践例を具体的に知る。(その2)
13	全国的に実施されているホスピタリティの実践例(1)	ホスピタリティの重要性は広く認知されるようになり、全国各地での実践例が報告されている。それについて学び今後のあり方を考える。
14	全国的に実施されているホスピタリティの実践例(2)	ホスピタリティの重要性は広く認知されるようになり、全国各地での実践例が報告されている。それについて学び今後のあり方を考える。
15	レポート作成、発表	授業で学んだ内容について各自が作成したレポートを提出、発表する。

平成30年度

<b>科目名</b>	インターンシップ（福祉・情報）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 選択	
<b>担当教員</b>	知野 愛, 山口 猛			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	この授業では、事前学習として、実習先企業（団体）を調べることやビジネスマナー、プレゼンテーションについて学習します。その後、企業（団体）等において就業体験をします。 就業体験は、福祉の職場と情報処理関連企業に分かれて行います。			
<b>達成目標</b>	1. 将来のキャリアに関連した就業体験で経験を積む。 2. 実際の職場のマナーやルール、働いている方とのコミュニケーションを通し、職業意識を高める。			
<b>受講資格</b>	福祉情報専攻2年生	<b>成績評価 方法</b>	事前学習30点、実習状況60点、実習成果報告10点	
<b>教科書</b>	特に指定しない			
<b>参考書</b>	随時配布する			
<b>学生への要望</b>	インターンシップに参加する目的を明確に持ち、積極的に取り組むこと			
<b>オフィスタイム</b>	山口(家政学館4階情報処理教育研究室) 月曜Ⅱ限、Ⅳ限 知野(家政学館4階福祉情報専攻研究室) 火曜Ⅴ限、木曜Ⅳ限			
<b>自学自習</b>	予習：実習先企業・施設について調べる。 復習：学んだマナーについて日頃から実践する。実習内容を実習レポートにまとめる。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	インターンシップの内容、心構え、この授業で目指していることを理解しましょう
2	実習先の概要	<情報> 実習先の企業が属する情報処理産業の産業構造や業務内容についての学習し、インターンシップで実習する業務の内容や位置づけについて理解を深める。 <福祉> 実習先の施設の種類や仕事内容、デイサービスセンターの一日の流れについて学ぶ。
3	仕事術	実際の職場では、仕事を円滑に進めるため仕事するための“術”を色々身につけなければならない。この内、実習に必要な「意志疎通と電話対応」についてビデオ学習を行う。
4	コミュニケーション	職場でのコミュニケーションについての学習。ビジネスの現場では、上司との会話、お客様への対応、電話対応など様々な場面で適切な言葉遣いが求められる。ビジネス敬語を中心に指導する。
5	事前学習	<情報> パワーポイント復習 実習先で行われる研修終了報告会では、パワーポイントを使用するため、既に学習しているパワーポイントの機能を復習し、研修報告に備える。 <福祉> 介護職としての心構え 福祉サービスの基本理念、介護保険制度の基礎知識を学ぶ。
6	事前指導	<情報> スライド作成 作成テーマを与え、テーマにそったスライドをパワーポイントを使用して、決められた時間内に完成される訓練を実施する。 <福祉> 介護スタッフとしての職業倫理 専門職としての価値観、守秘義務、高齢者を守る法律等を学ぶ。
7	事前指導	<情報> 発表訓練 スライドショーを使用し、実際にプレゼンテーションを参加者全員が実施し、スライドの評価、時間厳守、言葉遣い、話す速度、態度などを確認する。 <福祉> 接客マナーと高齢者の理解 具体的な事例を通して、デイサービス職員としての接客マナー、利用者への対応の仕方を学ぶ。
8	直前指導	実習先の紹介。実習日程の確認。交通手段調査。実習中の保険加入手続。実習ノートの書き方。実習に関する諸注意。
9	学外実習	<情報> 実習先訪問 1コマ分 経営理論・企業組織に関する基礎知識の解説と職場見学をする。また、実習の誓約書、入館手続き等の事務手続きを経験することにより、インターンシップで実習することの意識を高める。 <福祉> 実習先訪問 実習先施設であるデイサービスを訪問し、指導者に挨拶し実習に関する注意事項を再度確認する。



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	学外実習 1日目	<p>実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間 1日を5コマ分とする。</p> <p>&lt;情報&gt; オリエンテーション 就業時間、就業規則、勤怠等企業全体の規則や実習スケジュール、実習する職場の説明などを行い実習が円滑に出来る様に基礎的な知識を得る。電話応対、接客などもある為、ビジネスマナーについて学ぶ。</p> <p>&lt;福祉&gt; デイサービス施設において介護補助の体験をする。 施設全体の状況を把握し、介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
11	学外実習 2日目	<p>&lt;情報&gt; 受付 秘書業務の場合は、パソコンを使用した書類作成もある。受付の場合は、来社したお客様の対応を実践する。</p> <p>&lt;福祉&gt; デイサービス施設において介護補助の体験をする。 デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
12	学外実習 3日目	<p>&lt;情報&gt; 営業事務 営業事務では、お客様からの電話の取次ぎや受発注事務、総務では会社の仕組みや社内メール等の社内サービスを学ぶ。</p> <p>&lt;福祉&gt; デイサービス施設において介護補助の体験をする。 介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
13	学外実習 4日目	<p>&lt;情報&gt; インストラクター WordやExcelを中心に開催されているパソコン教室の補助インストラクターの実習をする。自分自身のパソコンスキルが教える立場に立った場合、どの程度通用するか実体験する。</p> <p>&lt;福祉&gt; デイサービス施設において介護補助の体験をする。 介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
14	学外実習 5日目	<p>&lt;情報&gt; 成果報告会 4日間の実習成果をパワーポイントのスライドにまとめ、決められた時間を有効に使って各自が発表する。人に伝える為の効果的なプレゼンテーションを実践を通して学ぶ。他大学からのインターンシップ生と合同で実施する。</p> <p>&lt;福祉&gt; デイサービス施設において介護補助の体験をする。 介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
15	まとめと事後の指導	<p>実習のまとめと報告 学内での実習体験発表。グループ討議。学外実習ノートの整理と提出。</p>